

東京 陵 水

賀 正
平成15年 元旦
陵水会東京支部役員一同

特集 母校の独立行政法人化に向けて 宮本憲一滋賀大学長に聴く

国立大学独立行政法人化は、平成十六年四月からの実現に向けて着々と行政措置が進められている。母校の存立も、特定の近隣大学との統合合併問題を軸に検討がなされている。この衝に身を挺して当たっておられる宮本憲一滋賀大学長に今日の取組状況についてお話を伺った。
時：平成十四年十一月十一日。所：滋賀大学学長室



——近江路きれいですね。
(学長) ええ、少し今年は紅葉が早い気がしますけどねー、その変わり今ちようどいい色になっていますね。
——評議委員会などで、春に私、毎年大学に参っているのです

が、秋にきたのは初めてくらいで、今更ながら紅葉はきれいなあと思ひまして……。
(学長) そうですね、幸い環境は他の大学に比べていいものですからね、只ちよつとキャンパスが狭いのが難点ですね。

——全体のキャンパスがですか。
(学長) はあ、ですからもう少しゆつたりすると、もつときれいになるんでしょうけれども……。
——われわれが在学中には五万坪ときいていたのですが……。グラウンドなどもう少し広がったようですね。

目次

1	面	特集インタビュー・宮本滋賀大学長
6	面	中国・東北経大と学術交流
7	面	年頭所感・小池支部長
8	面	対談「こんにちには」
12	面	随想・俳句・図書紹介
13	面	ゴルフ談義・囲碁会便り他
14	面	近況
15	面	彦根コンフィデンシャル
16	面	年会費納入者一覧
17	面	編集室所感 18面 広告

(学長) そうです。グラウンドを替え地いたしましてね、ちよつと離れているんですけれどね。道路を隔てて、近江絹糸が完全に廃墟みたいになっていて全然使っていないので、あれを何とかもええればと思うんです。なかなか、国の財政もありますけれど、向こうの方も、公共的なものならば譲ってもいいといわれてるんだけれども、なかなか手放さない。本当はこれから大学院を拡張したり、研究施設をやるうとしますと、ちよつとここは狭すぎるですねー、あそこをもらえないかと思ひつてます。ちよつど湖に面していいすし、最高なんです。

——完全に空いているのですか。
(学長) ええ、殆ど使っています。一部、寮に大学の学生を居させてもらっています。
——それが「橋頭堡」になっていくといいんですが……。
(学長) そうなるといいんですが……。道路一つ隔てているだけですから、それこそ屋上に道路をつければ、道路を渡らないで往来できますからね。広さは現キャンパスより広いですから。使わないと、何でもそうです。が、きたならしくなり、本当に「幽霊屋敷」みたいになってしまいますね。一応警備員をおいても使っていないですね。

——景観上もよくないですね。
(学長) そうですねー、せつかく湖が見える場所です……。

倉敷で、倉紡が工場の跡地を綺麗にしています、ああいう形にでも利用してくださいたらもつとよろしかつたんですねー。こちらは、何もしないで放つてあるから、気持ちが悪いですよ。

——大学の広さが倍増すれば、学長先生の構想も一挙に膨らんでいきますね。
(学長) そうです、今度独立行政法人になりますから、財産が増えておけば良かったなーという感じなんです。(笑)

この大学は、高度成長時代に拡張できるのが、出来なかつたということがずーつと祟つていますね。もう一つ学部をつくっておけば、今みたいに苦勞しなくてもすんだんですけれどね、そのために絶好の場所だったんですけれどねー。

——前回の東京陵水のご講演の中でも先生がおっしゃった、大学の二つの学部の確執みたいなものが、学部の新設にネットクになっていたようにお聞きしているんですが……。
(学長) はあ、今、統合再編という問題が出ていますけれども、これも、滋賀大の場合のような二学部というのは全国に殆どありませんのでね、単科大学並にどうしても統合しろというように押しつけられてくるんですね。もう一つ学部があったら別に動かなくて、悠々としておられたんですけどねー。

——もう一つ学部があれば、統合再編問題についての「風あたり」も少ないのですか。
(学長) そうです。教育学部の統合問題だけです。もう一つ学部があれば、医大(滋賀医科大学)と一緒に滋賀大学は残れたのです。二学部で、しか

も一つが今一番統合を急がされて
いる教育学部だもんですから、
事実上単科大学と一緒で、
文科省の方も放つとかないでし
よう。

——今、当経済学部が国立大学
の中で一番大きな学部というこ
とで、学部を二つに別けてさて
どうでしょうという働きかけは
出来ないのでしょうか。

(学長) その方法も考えたんで
すけど、やはり自然科学系でな
いと難しいですね。経済を二つ
に別けて経済と経営とか何とか
社会学部ではダメです。歴代の
積み残しを全部背負わされた感
で参ってるんです。統合、再
編というのは私が学長を引き受
けてから出てきた話だもんです
からね。まさか滋賀大学が無く
なってしまうという閉幕のこ
ろをやらされるという割りの合
わない仕事になるとは思いませ
んでした。

突如統合のはなし

——ご就任になる前には、そう
いう話は無かったのですか。

(学長) 「法人化」問題はありま
した。学長に推薦されまして、
大変重大な時ですから、学内の
候補者が出れば退くといったん
ですけれども、誰も出ないで私
だけになったものですから、信

任投票で決まりました、五月に
もう決まっていたんですが、六
月の下旬に突如統合、再編とい
う「遠山プラン」が出て来まし
てね、「しまった」と思ったんで
す。(笑)ガックリしましたね。

問題を含んでいまして、師範学
校以来の伝統がそれぞれの地域
にありまして、現在、教員の需
要は減っているんですが、各県
の教育委員会とすれば、地元
に教育学部が無くなるというの
は、当初は、今年度中に
全部統合して欲しいという文科
省の決定で、もし自力で出来な
いなら文科省の方が指導するよ
うなことをいつていたんです。



(学長) 統合再編の方は、まだ
まだ課題が沢山あります、文
科省もとにかく法人化を急い
てほしいということなんです。平成十
六年四月発足という形で一齐に
やるということなんです。統合再編
の出来ていないところでも、早
く法人化の作業をしてほしいと
の要請です。ですから、法人化
がすんでから、統合再編になる
と思います。統合再編の方もい
つからということでは決まってい
ません。県域を越えていますと、
それぞれ主張するところが違い
ますので、まだ協議会も出来て
いない状況です。

——国からの要請では、統合再
編をいつまでとかいうことがあ
るのですか。

(学長) 教員養成課程の統合と
いうのができるだけ本年度内と
いうことでした。これは統合再
編の中でも教育学部の問題なん
ですが、これがまた一番面倒な

ところが、山形県の知事が、山
形大学教育学部と宮城教育大学
と統合再編し、山形大学から教
育学部を無くすということに、
強い反対をいたしました。小学
校の四十人学級を少人数学級に
するよう考えるということでは
備したのに、勝手に山形大学が
教授会で教育学部を無くしてし
まう決定をしたことに反対だと
いうことで、二十万人署名を集

めて文科省へ持っていった。文
科省もその山形県の政策をダメ
ともいえないので、「検討させ
てください」ということになっ
たようです。このために文科省
は、トーンダウンしているよう
です。他のところでも必ずその
ような問題が起こる可能性が出
て来ているんです。そんなこと
があるものですから、最初は何
の大学ももう少し急ぐつもりで
交渉が始まっていたんですけれ
ども、実際にやってみますと、
滋賀県の場合も滋賀大学の教育
学部が無くなることには県は反
対ですから、なかなか簡単には
すすまない。このため、文科省
の方では法人化を急がせて統合
再編はそのあとでよいとしてい
ます。ただ、現場からいいます
と、法人化してまた法人同士の
統合ということになりますの
で、二重手間になりますね。

——京都工芸繊維大と京都教育
大と滋賀大と医科大の四つを統
合再編するというのは、文科省
の方からの要請なのでしょうか。

(学長) 公式にはいつていませ
んが、実際にはその方針のよう
です。滋賀医科大学は今後のバ
イオ関連の研究・教育を京都工
織大と一緒に進めたいという要
望が強くありまして、当初は滋

賀大学とだけといていたんで
すけれども、教員養成課程の間
題が出てきまして延期をした機
会に、京都工織大と提携をどん
どん進めていまして、退がれな
くなっているんですね。です
から、滋賀大学と滋賀医科大学と
だけというのは、困難になって
います。京都工芸繊維大を入れ
ざるをえない、そうすると京都
教育大も入ってくることにな
る。そうすると、この四大学以
外に選択はむづかしくなりまし
たね。さらに他の大学が出て
くる可能性だってありましてね
。近畿は単科大学が多いこと
でして、統合を進めるには課
題も多いのです。

——それは、他の単科大学から
申し入れがあるということでは
ないか。

(学長) そうです。単科大学に
ははじめから圧力がかかってい
ますから。文科省の方は原則と
してまず単科大学を統合すると
いう考えです。

——統合のメリットというのは
あるのでしょうか。

(学長) 教育課程については、
かなり議論されてきているの
で、メリットはあると思うん
です。というのは、小学校の教員
養成課程が弱体になっていま

す。昔の師範学校の先生は、教育の技術が卓越してたんですね。今の教育学部の学生は、それぞれの専門をもっていて教員免許をもらうということになっていて、トータルに小学校の子供をどういうふうに教えるかということには弱いわけです。昔よりは教養があり、専門は強いですが、小学校の先生は万能でなくてはいけません。子供の身体や心理をよく理解してやれる総合的能力というものが、確かに落ちていることは間違いないです。だから、この機会に小学校の教員課程を今までと違う形にして、その教え方だとか、その教員を増やして強化しようというのが、今度の統合の一つのネライではあるんです。これは、悪いことではないんですね。統合して、本当に質の高い小学校の教員をつくらうということでも再編成して、二つの大学から選抜して教師の数を増やしてやろうとすれば、これはプラスになるだろうと思います。しかし、実際にはそれだけの目的ではない。経済学部の学生に「統合して学生にどんなメリッ

トがあるのですか」と聞かれて、ちよつとつまってしまつたんですが……（笑）

これが、同じキャンパスの中にあれば、医学部の講義、工学部の講義などが聴きにいけないんだけれども、これだけ離れていると、名目だけ統合しても、学生にとつては何のメリットもないですね。教師の方からは離れていても共同研究は出来ますから悪くはないでしょうが、それでもキャンパスが一つの総合大学でなく、彦根から京都までというのは一日がかりになりますね。私も何度も文科省の担当者との懇談の度に、統一キャンパスをつくらなくてはいいけない、やる以上は日本の高等教育の水準を上げるために、うんと予算を出して、四つの大学が、同じキャンパスの中で統合化出来るようにしなくては意味がないといっているんだけれども、きびしい国家財政の下、統合再編も合理化の一環だから予算は出せないというワケです。だから中途半端なんです。統合すると、教育学部の場合も人数が余りますので、どうしても新しい学部を作らなくてはいけない。ところが、急に出てきた統合問題からですから、十分に検討して新しい学部をつくれるという余裕がないんです。新学部をどうしたらいいか

ということも、アタマの痛い問題です。この検討も既に始めているんですが、どういふものが新学部としてつくれるか、理想と現実とのギャップが出てくるのです。つまり、こういう学部にしたいと思つても、今いる人達を中心にして現在の専門に合わせなければいけない。

「百年の計」のもとに
——東大の教養学部のような形などはどうなんでしょうか。
（学長） そうですね、ああいうものに近いもの、リベラルアーツのようなものになるのではな



いでしょうか。——そういう新学部をつくる時には、文科省はバックアップをしてくれるのですか。
（学長） いや、予算をどうつけてくれるか全く発表していませんので、むつかしいですね。ただ、どの大学も大量の餓切りをしてまでやるということになると、それは教授会とおりませんから、新学部として今の人員を残さなければなりません。例えば自然系の学部などをつくと実験室とか設備もいるのですから、そういう点でいうと文科省は何を考えているのかわかりません。

——それだけ文科省が急ぐというのは、産業、経済界の自由化とか経済面のグローバル化等とのかね合いが大きいのでしょうか。
（学長） 背景としてはありますし、私も改革そのものには反対ではない。特にこの大学も年来ずっと自然科学系が欲しかったし、経営学などでは、自然系の学部がそばにあった方がいいでしょうし、学生にももうちょっと。——「経済諮問会議」へ出して、構造改革の一環にさせられたからこうなるんですね。今の景気対策とか経済振興に直接役立つことではなしに、もう少しゆっくり、高等教育の未来ということで、計画を樹てなければ……と思うんです。

——この「流れ」というのは戻すことは出来ないという状況に來ているのですか。
（学長） 今は、何でもそうなんですが、国民がおとなしいというか、非常に大事な問題について発言、議論をしなくなつて來たんです。かつてなら、学生もいろいろ議論したに違いないの

に、「タテ看板」も何もないでしょう。(笑) 法人化と統合再編について全学集会をやったんですが、学生はシーンとしていて、反対の動きはありませんでした。教師の方もそうですね。

特別におかしいのは、私立大学もダメっているのです。必ず次は、私立大学の統合再編にくるわけですからね。どういう形にすべきかという全体の高等教育の展望について全大学人が動いてくれないと困るんですが……

——学生の間にそういう動きがないということは、情報が少ないことに起因はありませんか。(学長) 学生諸君も変わりませんでしたね。自分中心になっているから。『滋賀大学ナシヨナリズム』みたいなものがあれば、もうちょっと私のところにも文句をいにくるんじゃないでしょうか。

——今の在学生にとっては、自分たちが卒業したあとの問題だと……。

(学長) そうです。どういう不利益があるかが気になっていて、例えば授業料が上がるとか、取得した単位がダメになるとかいうことなら問題なんじゃないけれども、それは、自分たちが卒業するまで関係ないと判つたらもうそれでいいと……、まあ、

きつと卒業してから考えるんじゃないけれど。

——授業料などは、法人化すると大学独自に決めたりするのですか。

(学長) 建前はそうなるんです。それぞれ一応財政的に自立するわけで、計画を出して文科省が承認して予算をくれる訳です。例えば産学共同をやった外から資金をもらおうというのは自由です。また、予算が余ったら各大学で勝手に使ってよろしい。反面、足らなくなったら授業料を上げたりすることも一応は自由になるのですが、ただそうすると、格差が出てきますので、そのところは論点になっていまして、標準的な授業料みたいなものを出してこの線に収めよというのが文科省の方針のようですね。当面十六年度は、現行でいくということのようです。

——とにかく大改革ですから、職員も非公務員になることになり早速影響が出ていまして、事務職員の募集にしても、京大のように入定の半数しか採用できなかったということがあります。教師の方に対する影響も今後出て来ると思います。

——研究活動に対する影響などはどうでしょうか。

(学長) 今出ているのは原則的な話なので、予算の方がどうなるか等まだわかりません。基礎的な部門と応用的な部門の区別はむつかしいんですが、はっきり言えるのは、文化系は産学共同といっても大きな金額で研究費をもらえるようなものはして

いませんで、法人化しても急にかわることはないと思えます。理科系の先生達にいわせると、H I V問題のように産学の癒着によるマイナスもあるので、産学共同で完全に自由にやれるかという問題があります。大学が倫理基準みたいなものをつくらなければなりません。今までの教育公務員としての倫理性を破ってやれる範囲というのは、そうないんではないかという気がするんですね。期待するほど対外的に稼げると思っているのもおかしい話です。

産学共同の動き

——滋賀大としての産学共同に対する最近の動きはございますか。

(学長) 今、社会的には二つありまして、一つは「産学共同研究センター」です。これは今年から省令化して正式の研究センターになりました。非自然科学系では全国最初です。ここが中

心になって今、外部との産業共同研究をやるうとしてるので、経済学部ですから範囲は地元中小企業や自治体などが多く、都市づくりだとか財政計画をつくることで共同していま

す。もう一つは、もっと直接的に自治体と一緒にやろうということで、「地域連携センター」をつくりまして、県の企画県民部とうちの大学とが共同しまして、自治体もついている長期計画だとかいろいろな政策について、一緒にやろうということになっていきます。どのくらい大学の財源としてつかえるかという

と、これは問題ですけれども、一応そういう動きはしているんです。

——大学院の中に博士課程を設けるということをうかがっています。法人化に先立ってかその後かについては如何でしょうか。

(学長) この博士課程設置については、進んでいます。私共にとつては大変朗報なんです。が、一応文科省の方の概算要求をパスしました。十二月に財務省が審査をしますので、まだ完全にはパスするかどうか判らないのですが、現在の教授でやる等多額の予算が要りませんので、多分うまくいくんじゃないか

と思っています。「リスク経済・経営研究科」(博士課程)の設立です。旧高商系では、経済学部の上に博士課程を乗せたのは、本学部が最初です。これは、旧高商系の各大学から羨ましがられています。他の旧高商系の大学からも、展望がひらけたと、喜ばれていることです。今まで、旧高商系のドクター(後期博士課程)の設置は、私立大学などくらべて差別されていまして、教授もスタッフもそろっているのに、経済系のドクターはできるはずなのに、ずっと止められてきましたからね、学長の間でそれが一番の問題です。経済学部の場合も、三十数名の教員がドクターをもっています。それだけの實力をもっているながら認められなかったのが、今回見通しがたつて、学長になってから、これは一番嬉しかったです。

——来年(十五年度)定員六名、うち四名を社会人と留学生、二名を学部の中から上げていくというところでスタートする予定ですか。

(学長) これは、申請の資格が



経済学部校舎

ドクターのあるところに限られていきますので、今年はお出しませんでした。これからは、毎年出していくことになると思います。

——今後、独立法人化したら、COEとかどんな積極的をやっていることが大学のメリットになるのでしょうか。

(学長) そうですね、私自信「司令塔」みたいなものだから、機会があれば新聞に書いたりするようになっていますが、意外に皆さんおとなしいんですね。もつと日経新聞などにもジャンジャン書いて欲しいですね。そういうスターをつくりたいです。そうしないと、学生が、この大学にどういるのか判らない。新聞、雑誌やテレビに出

てくる先生をつくらないと。(笑)

国立大学が、特定部門に専門家を集中してやったところが成功しているのに比し、国立大学はいろいろの部門をそろえ過ぎて特色が出ていないのです。しかし、これからはそうはいかないので、今重点を置いているのは、「環境」と、伝統的な「東アジア研究」ですね。戦前もこ

こでは「東アジア研究」をもっています。だから、今そこへ重点を置きたいと考えています。中国の「一橋大学」にあたる東北財経大学というのがあるんですが、これは、中国における財政・経済の大学としては最高学府なんです。その主要メンバーと私が交友関係があったものです。今年三月に、国際交流協定を結びまして、双方から教師を送り込むことにしました。来年(十五年)三月にうちの教授四人を、向こうで一週間集中講義させることにしました。財政・金融・社会政策と比較経済体制です。向こうからも、二、三人来てもらうことになっています。中国との関係がこれから日本経済の死命を制します

のでね。どうしても拠点をおこへ置きたいと思っ

て、この間も東北財経大学の干渉洋理事をお招びいたしました。記念講演をしていただきまして、「WHO加盟後における中国経済の現状と課題」というテーマで非常に良い話をしてくださりました。今後、ますます交流しようということになりました。久し振りに学生も沢山聴いてくれたのでよかったです。

中国一流大学と交流

——将来的には学生の交流もあり得ますか。

(学長) 学生の交流もしたいと思っっています。私も向こうで二回講義をしたんですが、彼等のレベルはかなり高いです。すごい意欲をもっています。講義を終わりますと、ワーツと手が挙がって、日本の学生と勢いの違いですね。

今、東北財経大学との間が非常にうまくいくようになりましたから、それに期待をかけているのと、もうひとつ、これは教育学部が中心だったので、タイのチエンマイ大学やプリンストン大学と環境調査を一緒にやっています。経済学部も加わりまして、来年(十五年)、チエンマイ大学で「国際シンポジウム」を共催しようという計画が出来ました。

国際交流の方も思切つてやらないと……このままにしていますと、滋賀大学は二流、三流になってしまいますから。——今、留学生はどのくらいきているのですか。

(学長) 留学生は百五十六名です。その内百三十名が中国なんです。これからは、留学生の質も上げないとこちらの学生への刺激にもなりません。良い学生がくれば、帰って向こうで活躍してくれませんか。そうするとまた、非常に大きな意味をもつてくれることになります。

——これからも、積極的に独立法人への構想を着々と実現されていくということでしょうか。

(学長) まあ、法人化すること自体は大学の自治という意味で必要なことですが、ただ、今の文科省の法案そのものは問題があります。最終的に文科大臣が中期目標、中期計画を承認するとなっているのです。六年度の目標と計画を最初に承認されると、しばらくは承認ですね。それが実行出来たかどうかで予算を調整するということですが、そこがイギリスなどとは違っていて、イギリスは法人化した場合も、文部省は第三者機関にお金を出して、第三者機

関がそれぞれの大学に出すというようにしているのです。ですから、そんなに政府の方をみてやらなくてもいいようにしてあるんです。日本の方はお金政府が握っているから、かえって今まで以上に縛られることになるか心配しています。

——法人化後の滋賀大学の競争力については如何ですか。

(学長) 経済学部も、将来計画について議論して、取り敢えずドクター(大学院博士課程)をつくりこれは成功したので、その次は学部をどうするかという案をつくってもらっていますので、多分再編成の軌道にのると思います。

経済学部のやや過大な現状も、法人化の後では今までのような面倒な審査はないようです。から、二つの学部に分割することも可能だと思います。社会的にみて、合理的な形のもので出ますから、次は経済学部の再編成をしようという少し質の高いものにしてほしいです。ビジネスと遅れをとるでしょうね。——そういう意味では、なかなかむつかしい法人化問題ですが、逆手にとっていけば、いろ

いろいろな夢が広げられということにもなるんですね。

(学長) そうです。そういうふうに考えないと、とてもこの面倒な改革はやれないですね。

今、ものすごく事務が多くなっているんですよ。学長として一番困るのは、研究の出来る先生ほど事務的にも有能だから、本来の研究をさせてかつ、いろんな組織替えのための案をつくらせていますからね。研究が遅れてしまうのは本当に忍びないことです。教官各位に多数の分科会をつくって案をつくらせています。事務の方はもっと大変だと思えます。制度設計、財務、人事、財産目録の整理、就業規則の整備、中期目標・計画など法人化の前提条件として来年(十五年)三月までにはつくらなくてはならないのです。

—— こういう時にあって、我々 陵水会の側に対して何かお話がありましたら……。

(学長) そうですね。まず、一つは私として大変心苦しいんですが、四大学が統合する場合には「滋賀大学」という名前が消える可能性があるんですね。ただ、「滋賀」という名前は何とか残したいと思っています。そういう意味では、滋賀大学出身

の方に大変辛い問題なんですけれど、経済学部としては、この機会にドクターも出来そうですし、近々韓国とも交流したいというように、国際化についても非常に積極的に動き始めていますので、現在持っている現有的ポテンシャルを最大に生かしたいと思って居ます。法人化したあと、いろいろな意味で、同窓会の方に助けていただかなくてはならない点が出て来そうなのがしております、国際シンポジウムを開いたり、新しい事業をやっていくというのと、法人化以降は自前で予算をつくっていくかなくてはならない、今後同窓会の方々には助けていただかなくてはならない面が出てくるんじゃないかと思っています。法人化すれば、結局もう一度改めて同窓会との間に経営基盤をつくるよう検討して、どういうふうにかこの大学を

発展させるかというのを考えていかななくてはならないと思います。今までと違って自立すれば、一番大きい資産が「卒業生」ですから、実力のある経済学部をますます発展させていきたいですね。

—— 本日はお忙しい中、有難うございました。

中国 東北財經大学との学术交流の実施

滋賀大学は東アジア地域との学術・教育交流の推進を国際交流の大きな目標としており、そのため平成十四年三月に中国の有力大学である東北財經大学との間で学術交流協定を締結した。

学術交流協定調印式は、昨年三月十八日午前十時三十分(現地時間)から、中国大連市の東北財經大学において、滋賀大学側から宮本憲一学長、小栗誠治



干洋教授(右)と宮本学長



干洋教授(右)の講演

副学長、東北財經大学側からは干洋校務委員会主席、艾洪徳副学長、王鉄軍国際交流所長の出席のもとに開催された。協定の内容は、それぞれの学術研究及び教育研究上関心を持つ分野において、交流を行うとして、(一)教官及び研究者の交流、(二)学生の交流、(三)共同研究の実施、(四)講義・講演・シンポジウムの実施、(五)学術情報及び資料の交換、としている。

十月三十日は午後一時から一時間三十分にあたり、同主席により「WTO加盟後の中国経済と今後の課題」の演題で、講演会が経済学部第二校舎棟四階大会議室において開催された。参加者は経済学部の教官と学生、事務官、若干の一般人で、好評が得られた。この後、同主席は講堂、史料館、陵水会館、情報処理センター等を見学、午後六時からの歓迎夕食会のため彦根プリンスホテルに向かった。

翌十月三十一日、干首席等は午前九時過ぎから午前十一時四十分頃にかけて、彦根城、彦根城博物館等を見学し、彦根を後にした。

○ 東北財經大学との協定締結後、初めての学術交流を次の内容により実施することになった。

一、全体テーマ
「グローバル化時代の日本経済と財政金融」

東北財經大学の研究者及び学生を対象に、「グローバル化時代の日本経済と財政金融」というテーマで本学経済学部の教官が連続講義を行い、日本の経済について相互の理解を深める。

二、講師及び個別テーマ

本学教官（四名）が東北財経大学に向き、各教官が次の内容で、それぞれ二回、計八回の講義を行う。

- (一) 小栗誠治副学長・教授
「日本の金融」「金融政策」
 - (二) 成瀬龍夫教授
「日本の財政」「社会政策」
 - (三) 福田敏浩教授
「日本の経済政策」「移行経済」
 - (四) 只友景士助教
「日本の地域経済」「環境経済」
- 複数の教官を海外の大学に派遣し講義を行うのは、滋賀大学にとって初めての試み。

三、期間

平成十五年二月―三月の間、五泊六日を予定。次の日程が現時点での候補。

- (一) 三月十三日(木)―三月十八日(火)
 - (二) 二月二十八日(金)―三月五日(水)
 - (三) 二月六日(木)―二月十一日(火)
- ## 四、その他
- (一) 通訳(東北財経大学で対応)
 - (二) 費用(本学が旅費、宿泊費とも負担)

皆様、明けましておめでとございます。

始まってもう既に十年以上続く大不況ですが、今年は何とか回復の年になって貰いたいと願うのは、私一人だけではないでしょう。年頭からこの様なご挨拶をお許し下さい。

この時期、余り前向きなこととは出来ないし、またすべきではない、寧ろ長年突走ってきた中で忘れてきていた、大切な事を見つけ整頓する良い時期ではと、前支部長川本氏は

してきただろうか、それらしい事をしたであろうかを自問自答する時、あまりあるとは思えない一種の空虚観に襲われるのは私一人ではないようです。

目下、学校統廃合と国立大学法人化に向けて、国家的にメスが当てられています。学校側は先ずこれを超える為に、京都工芸繊維大学・京都教育大学・滋賀医科大学との統合交渉を続けている事、そのリーダーシップを取る為にも滋賀大学側は博士課程(リスクマネージメ

年頭所感

陵水会東京支部長
小池英夫(大1回)

と話し合っているところです。

兎角忘れがちだった「亀とヤンスだ」と思うのですが。その意味で、日本はアメリカを真似て余りにも早く便利になり過ぎ、却って不便になっている、問題が山積していることを私自身実感することが多いですが、同じことが我々自身にも起こってきたように思われます。

その一つとして、母校滋賀大学の発展を祈って後輩に接

します。

十一月二十九日(三十日、秋晴れの金・土曜日、彦根陵水会館に卒業五十年記念行事実行委員としての八人が集まって、吉田芳和氏作成の「若き命の雄叫びの寮歌と部歌集」と、磯部桜氏編集の卒業以来五十年の皆さんの体験論集について語りつきました。とりわけ「若き命の雄叫び」は実に立派な労作でよく出来ており、募金運動にも大いに



役立つことが確認されました。三月から四月に完成の予定ですが、皆様も早くご覧になることをおすすすめしたい。

十一月二十八日の陵水会東京支部幹事会では、時間不足のため説明が不十分でご理解を得る報告が出来ませんでした。が、勝手ながらこの新年のご挨拶に替えさせて頂きたいのです。今年も皆様が先ず健康で過ごされることをお祈りします。

平成十四年度

下期幹事会の開催

前年十一月二十八日(木)午後六時三十分から、東京ステーションホテル「牡丹の間」において、十四年度下期幹事会が開催された。議題は、先ず平成十五年支部総会の開催企画につき、当番幹事の大15回馬島惟安氏から企画案の説明があった。起案に当たり①14回生幹事の努力と工夫により十四年度総会が成功裡に終了した、②十四年度総会の「開催スタイル」を尊重の上、一層の出席者の増加に結び付ける、を前提としてゆくとのことであった。

開催の時期を六月二十五日(水)、会場は東織年金会館と昨年度と変わらない方向で検討を進めている。会費も十四年度並みとする事が了承された。記念講演の講演者については、候補者を更に検討することになった。来賓は有力ゼミをもち、大学統合同題に関わりのある現役教授を対象に考たいとの意向である。

次に経済学部八十周年記念事業計画につき事業の概要と事業資金の募金活動の展開に関して小池支部長から、七十周年時の実績等を川本前支部長からそれぞれ説明と要望があった。

守谷輸送機工業株式会社

代表取締役社長

守谷 貞夫氏(大12回)

本社 〒二三六〇〇〇四

横浜市金沢区福浦二丁目十四番地九

電話 〇四五―七八五―三一一

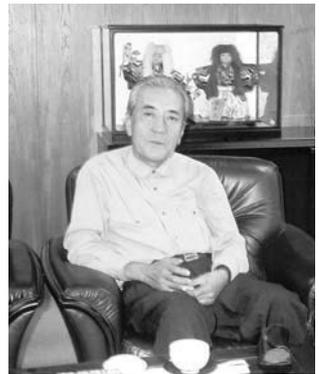
FAX 〇四五―七八〇―一八八一

昨年十月二十一日、横浜の金沢シーサイドライン福浦駅から徒歩五分の本社を訪ねました。沿線からは「守谷エレベーター」と大書された同社のエレベーター試験塔が見え、工業団地の一角にあります。

「お忙しいところ、お時間を頂戴しありがとうございます。会社の経緯などからお伺いしたいんですが。」

(守谷) この会社は、昭和二十四年設立です。五十二年に昭和四十四年の十二月です。三十九年に滋賀大を卒業して五年間は神戸製鋼にいました。守谷家へ、婿養子に來たのです。そこ

の娘が一人っ子でして、聖心女子大学の三年の時に見合い結婚しました。仕事を手伝うのなら、



名前を変えたほうがいいだろうということ、途中で名前を変えたわけです。元は佐名手とい

います。当時、たまたま神戸製鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製

鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製

鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製

鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製

鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製

鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製

鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製鋼の東京勤務で、外注業者の管理をしてきた時のことです。製

が二万五千円でしたが、三菱銀行とか三菱商事や三井物産なんかは二万円でしたね。

「いま、会社は忙しいんですよ。」

(守谷) そうですね。当社は不景気のときのほうが忙しいのです。うちの競争相手というのは、日立製作所、三菱電機、松下、東芝さんというところです。そ

れで、いままぜこの時期に忙しいかということですが、例えば従来、貨物用エレベーターが出

ると、三菱グループは三菱、日立グループは日立、東芝グループは東芝とみんなグループで造

つたのです。例えば日立物流は日立を、東芝物流は東芝を使

つてたのですが、不景気になってそんなこと言っておれないから、皆うちへきたのです。名前

なんかどうでもいいから安いほうがいいということです。全部こっちへ来るから忙しくって、

不景気のほうがいいのです。現在、フル操業です。

大型貨物用に注力

「エレベーターを製造されているんですね。」

(守谷) そうです。特に大きな貨物用のエレベーターを専門に造っています。人の乗る役所向

けの乗用もやっておりますが、やってるんですか。

(守谷) やってますよ。乗用は、カタログにありますように、特に超ワイドエレベーターが主力です。世界一大きなものでは、

間口が十四メートル半もあるものもあります。劇場の緞帳を折れないように巻いて上げるとか、二十トン級のトラックを車

ごと揚げる時なんかのもので、す。こういう方面では日本一です。それと冷凍倉庫用エレベーターですが、これも日本一で、

全国の六割位を当社が占めています。例えばニチレイさんはほとんど当社のエレベーターを使

っていただいています。冷蔵庫の大手の太平洋冷凍、横浜冷凍、東洋水産さんのもそうです。

「人間の乗るエレベーターも

り立って行きません。現に貨物

の乗るエレベーターも



守谷輸送機工業本社

用でうちが一番大きいというこ
とは、それなりに値段的にも全
国の値段を当社がリードしてい
るといふことで、当社がなけれ
ば困るところは一杯ありますか
らね。例えば、こういうものを
一番使われるのは日本通運さん
ですが、ほとんど当社で納めさ
せてもらっています。日通さん
は流通業ですが、倉庫業では三
菱倉庫さんが一番大きいです
が、これも当社のエレベーター
を使っていただいております。

印刷では大日本印刷さん、宅急
便のヤマト運輸さん、日産自動
車さんなんかも系列も含めて当
社が多数納入しております。ト
ヨタ、マツダ、いすゞさんにも
納入しております。

その一方、船舶用のエレベ
ーター部門をスイスのシントラ
社から、十四年の七月に買収し
ました。船は揺れるでしょう。
ですから中にぶらぶらしてるも
のがあるといけない、今までは
日本シンドライバーという会社
が造ったのです。将来はこの分
野も当社が独占することになり
ますね。

——技術的な問題はどうか
すか。
(守谷) 日進月歩ですね。当社
の隣のビルの四階に設計要員が

いますけれど、一番金がかかり
ますね。去年あたりから開発投
資に金をかけています。開発投
資をしなければ利益がもつと増
えるのですが、それをやらない
と駄目ですね。例えば、マシン
ルームレスと違って、普通、エ
レベーターというのは機械室が
上にあつて吊つていますが、こ
れは機械室がなくて全部、昇降
路に納めてしまうというもので
す。乗用ではありませんが、貨物
用の大型では今のところうちし
か出来ません。やっとなり出し
たところです。

あの高い塔はテストタワー
で、エレベーターのテストをす
るのです。四台のエレベーター
のテストが同時に出来ます。高
さが四十五メートル、地下が四
メートルで約五十メートルあり
ます。新しい製品を開発して機
種変えたときに、これでテスト
するわけです。客先でテスト
するわけにはいきませんから
ね。この設備投資が大変なんで
す。コントローラーを一つ取り
替えるだけで一億二千万円は掛
かりました。従来はプリント化
されてなかったんですが、プリ
ント化して小さくしました。

世界的規模で展開

——これからの事業の方向とい
うのは。

(守谷) 先ほど申しましたよう
に、船のエレベーターを買収し
ましたから、世界的な規模でや
つていきます。いま中国からも
韓国からもどんどん引合いが来
ていますね。将来、手堅く伸び
るものだと思います。うちでや



るのは、タンカーとかコンテナ
船とかの大きな貨物船に取り
付けるものですから、中国には
そういう会社はありませんし、
韓国には一社ありますが技術的
に後れているし、コストも高い
ようです。

——みんなコンピュータ化され
てるんですか。
(守谷) いまのエレベーターは

全部コンピュータ化されていま
す。エレベーターが故障すると、
自動通報装置でこちらへ連絡が
来ますね。こちらでどこが故障
しているかすぐ判るようになって
いるのです。一般にエレベ
ーターは保守点検が要りますが、
それを遠隔点検と違って、ここ
らから点検できるような操作に
もなっています。夜中、動いて
ないときに、こちらから動かし
て遠隔操作で点検していくので
す。

——会社の従業員数は。

(守谷) 百四十人です。技術職
は約八十人です。保守点検の作
業をするのに、全国三十八カ所
出先がありまして、これはみん
な独立させて自営でやっています
から、その人員は四百名位いま
す。うちの点検だけでは食えな
い人がいるから、よその点検も
しているよとしていますが、北
海道から沖縄までありますね。
エレベーター点検の場合、閉じ
込めたら大変なことになるま
す。あした行きますからという
訳にはいきませんから。うちの
社員が独立したり、販売店等に
やっていたりしております。少
なくとも一時間以内、だいたい
三十分以内に現地へ行けるよう
にしてあります。

据付業者というのも外注にな
っています。それも五十人くら
いいます。それと実際にものを
造るのは工場内でも下請け方式
にしています。全部請負いでや
っています。前は社員にやらせ
ていたのですが、能率が悪い、
効率がよくないで、原価が確定
しません。全部出来高の請負制
にしました。塗装工とか製缶工
とかも工場内の出来高制の下請
けです。社員抱えてしまつたら
どうしようもないですからね。
固定費が多くなりますから。

——そうしますと、会社の仕事
はどういうものになりますか。

(守谷) まず営業です。営業本
部が横浜駅西口にあつて、受注
してきたものを、設計(約三十
名の要員)に回します。それを
実際作つたり監督したりする製
造の監督要員がいます。機械化
してきますから、プログラムを書
いたりすることが必要です。出
来上がったものを現場で組み立
てるのは下請けにやってもら
うのですが、その監督が要りま
す。保守管理作業は外注ですが、
それを社員が隣りのビルで三十
人ほどで管理しています。運送
は別の運送会社があります。

——一基いくら位のものなんで
すか。



(守谷) ケースバイケースで、平均すると千二百万円位ですかね。昔は千九百万とか二千万位だったんですが、いまは値が下がっています。それに追隨して原価を下げなきゃならぬので大変なんです、半値になってますから。それに追隨できなかった会社は、大型エレベーターから全部撤退しています。

——新しいビルが建つ場合、ビルとしては貨物エレベーターのほうがウエイトは高いんですか。(守谷) いや、上等なビルほど乗用が多いですね。バックヤードにつくのが貨物用ですから。大きな工場、倉庫になりますと逆になりますね。現在、国内で

がないなくなってます、そういう大きなものになりますとね。もちろん造れるところはあります

が、努力してこなかったんで競争力がなくなりました。なぜかといいますが、我々の規模のところは早くから、役所、官庁向けに特化してしまっただけで、儲かるということから。不景気になって、受注が六割とか半分になってから、いまさら貨物エレベーターを造っても、合理化努力をしませんから全然採算が合いません。ですから彼らは困っているのです。うちの行きかたが正しかったわけです。

——ご苦労のエピソードは。(守谷) 若いときは苦労なんて思わなかったですね。ひたすら

遮二無二やってましたから。家業みたいなものですからね。株は私と女房で持ってますから。徹夜しようが何をしようが屁とも思いませんでした。中小企業というのは常に人手がないですから、忙しくなったら居る人員でやらなきゃなりません。必要な人員を充分置けば採算がとれませんから。

——社長は営業もやられたんですか。(守谷) ええ、もう。私は殆んど営業主体でした。先ほどい

った得意先は私がほとんど開拓しました。

樋口さんと宇野宗佑さん

—— 陵水の人脈とかは。

(守谷) 陵水の人脈は、商売とは切り離しています。ただ二人だけお世話になった方がいます。樋口広太郎さんと宇野宗佑さんです。

樋口さんには公私に亘り大変お世話になりました。アサヒビルさんには多数当社の荷物用エレベーターを使っていたいておられます。現在、健康を害しておられるようで大変心配しております。

宇野宗佑さんにも一声かけてもらい、半公共的な仕事をいただきましたね。科学技術庁長官をやられたときのことなのですが、そのときある人を通して会わせてもらい、関係者に電話をしていただき、纏めてもらいましたよ。工業団地をまとめて造るとき大きな倉庫のエレベーターを、うちへ決めていただきました。「俺は忙しいから、こういう話ではできるだけ速く要点をはっきり言うのが勝負やぞ」と言われましたね。「わかった、わかった」といって組合へ電話

政治と金の話は付きものです。そういうことは一切ありませんでした。ありがたい先輩でした。

それと学校関係で、私は昭和

三十九年に卒業したのですが、卒論を出し忘れたのです。一月十五日が期限だったので、私は神戸出身で、友達に神戸大生が多かったもので、そこが二十日だったもので二十日だと勘違いをしたのです。出来ていたのに出し遅れたのです。事務の村重さんが、私の友達に卒論が出てないことを伝えてくれて、次の日に出しに行きました。普通

通だったら卒業できないんですよ。それで、もうあかんと思つたのです、就職決まってるのに。ところがゼミの先生の芳谷さんが教授会に諮って下さったのです。教授会の表決、一票差で卒業させていただきました。三月三十一日、学長室へ行って、私だけの卒業式をやってもらいましたよ。学長も見えて「昭和三十九年度卒業式を行います」といって学長訓話もありました、「国歌斉唱省略」でした。学長訓話に「世の中に出

て二度とこういう失敗をしないように(笑)。これをいい教訓にして成功して下さい」と言わ

れ、「卒業生代表」の謝辞を申しました。

ですから世の中にはお返しを

せんとあかんと思っております。基本的にはあまり上げつな

いことはしております。税務署でも何でも、少しもごまかしはしてませんよ。税務署は長年、私を見て知ってますから私の書類は見ません。姑息なことはいない、公には尽くすと。それは徹底して。当社で日銀の短期資料を出しているのですが、それを日銀の横浜支店長が見て、去年あたりからずーっと売

上が伸びてきているのは、何だということ支店長自ら調べに来ましたよ。輸入品があだこうだと説明していたら、それは面白いから講演してくれと言われ、五月二十八日に横浜の経済同友会で一時間講演しました。中小企業で順調に売上を伸ばしているのはどうしてかというこ

とで、神奈川新聞には掲載されましたね。とにかく世代交代し、若手を教育して、今でも毎月一回、全員を集めて、金曜の夜は六時から八時まで、課長連中以上集めて勉強会をやっています。要するに社員教育です。私

所謂、ベクトル合わせです。

標準化でコストダウン

——その他、力を入れられてることは。

(守谷) 徹底して標準化ということをやっています。貨物用のエレベーターは全部寸法が違うのですが、それをコンピュータに入れて標準化してるのです。とつてきたらすぐに図面が出るようにしたのです。大手は乗用で六人乗り、九人乗り、十人乗りと標準化されてるから大量に出来るのですよ。貨物というのは寸法が全部違ってますから、大手がそれを一々やっていたらえらい手間隙が掛かります。それを大手の乗用と同じように標準化しちゃったのです。部材も標準化し、これを殆んど中国の上海で作らせ、半製品で年間三千トンくらい輸入しています。それを組み合わせて造るから安いのです。二年程前から手がけ、最近完成しました。こんなことできるのは日本ではうちだけですよ。

——世相については。

(守谷) 今は世の中、荒んでるというか、なんか温かみがないというか、起きる事件があまりにも血なまぐさすぎます。この

まま日本はどうなるのかなあと

思いますね。どんどんアメリカナイズされてね。二十年前、アメリカかってそんなひどい社会かと響き買ったのが、そのまま

今、日本がそうなってますからね。刃物が出てくる、すぐ人殺しはする、暴走族は暴れる、警察官が怪しくなってきたしね。昔は税務署と警察がしつかりして

てるから日本は大丈夫だと言われてたが。変な事件を警察の中心で起こすでしょう。神奈川県警

で起すにひどいですよ。やくざもんと結託してみたり、無茶苦茶だなあという感じですね。グローバルスタンダードとかい

って、グローバルになったのは、悪いところだけです。日本はもともと標準社会、平等な社会

を作ろうとしてきたのですよ。ね。それがバブル以後方向転換してね、貧富の差はものすごい

じゃないですか。金持ちは無茶苦茶儲けとるんやないですか。ちよつとした人物が一山当たたら

ら百億とか二百億とか持つててね。一方、働いてる人で食うに食えない人、一杯いるじゃないですか。

——陵水会への要望は。

(守谷) 小池さんに良くやっていただき、活性化されて、いい

と思います。総会の出席は、無

理に動員するものじゃないです。が、やはり雰囲気でもあれば出てくるんじゃないかと思うのですよ。出てきて面白いと思っ

たら明くる年も来るし、なんや全然面白くないわとなったら、来ないでしょう。それにはやっぱり、同期の人がおおぜい出てくれば、また連れ立って出て来る

でしょう。成功している大学の話をちよくちよく聞いて回るのですがね、一橋の如水会の

幹部がゴルフの友達で、彼等はクラス会単位で結構皆集まってるようですよ。同期会みたいな格

好でね。横浜国大はどうもうちに似てますね。もう一つ集まり

が悪いようです。一橋とか東大なんかはエリート集団だから彼等は彼等なりにいろんなメリツ

トがあるのでしょう。お互いに助け合うような雰囲気をつくり出さないといかんかも知れませんね。

——今度の本部の陵水会報に、学長が大学の法人化問題で、陵水会のバックアップが頼りだということを強調されていました。

(守谷) 法人化に対していろいろ

協力するといっても、結局、文部科学省にどう圧力をかける

かという話でしょう。そうなる

と圧力のかかる声の大きい人を同窓生から集めてきて働いていただくより手がないんですね。

東京陵水が中央に一番近いので、有力な先輩が結束いただいで頼みに行かなきゃしょうがないですね。どういうふう

に陳情していくかの策士も探さなければなりませんからね。

——趣味はなんですか。(守谷) ゴルフです。へたくそ

ですが。前回の陵水コンペで優勝しました。今度、幹事なんです。ハンデはオフイシャル十八

で、毎週日曜日はまわっています。家から五分位のところにゴルフ場がありますね。横浜カントリーですが。

——ゴルフのほかに何か健康法は。(守谷) 会社の周りを毎朝一時間歩いています。朝七時頃に来ましてね、約六〜五キロを一時間で早足で歩いています。昼も食

後四十五分間、五キロ位歩きます。七〜八年前に、血糖値が高いといわれたのです。そのとき、これはもう自分で治すしかないと思つて、それから歩き出したのです。そしたら三カ月位で正常値に戻りました。血糖値は二時間値で五百五十ありました。

少々の雨でもやっています。もの

すごく速いですよ。これまで歩いて私を抜かした人は誰もいませんよ。私の主治医がびっくり

しましてね。主治医はもともと糖尿病を患って、まして、「守

谷さん、どうしたらそんなに下がるんか教えてくれ」というものですから、「教えてもいいけれど保険証を持つてこい」とい

ってやりましたよ(笑)。「ただでは教えられん、先生はただで診てますか」とね。糖尿病というのは、定時に飯食つてカロリーを抑えておれば、治りはしな

い。——きょうはお忙しいところを貴重なお話ありがとうございました。



守谷輸送機工業ビル

閑話二題 偶然と必然

刀祿館信雄(大8回)

学生のころ友人が「存在は意識を規定するものであるから、人生は歴史同様必然である」と言っていた。しかし私は人生は偶然の積み重ねであると思っていた。社会に入ってからその感否めないと、思っている。そこで偶然の話を以下に二題。

一、私が年金生活に入った五年前、ポルトガルのロカ岬に行った時のことである。まだ早春で観光客も少ない時、大西洋を眺めてバスに乗ろうとしたとき、もう一台のバスが止まって日本人団体が降りてきた。その中の一組の夫婦がたまたまキャンセル待ちで入れてもらってラウンドした方であった。

旅行の二、三ヶ月前に初めて一緒にゴルフをし、知り合った人とヨーロッパ大陸の最西端で出会うとは。スペイン人の運転手さんもアミーゴかとびつくり。双方のカメラで四人一緒に記念撮影をした次第。

二、今秋北ドイツ旅行でハンブルグに寄った際、四十六年前のペンフレンドの消息が分かったことである。電話帳で彼女の姓を引いたところ、住所は異なっていたが一軒だけ出ていた。

連絡してみると、それが八十七歳でご健在の彼女のお母さんであった。書かれていた。今回彼女のお母さんの話では、三年間あった。

一九五三年当時、同年令のハンブルグ在住の女子高校生と、卒業までの三年間文通をしていた。学校生活、趣味、読んだ本、互いの国の話、国際関係情報など。また、弟さんが私と同様に切手を集めているとのこと、切手の交換などもした。

句を詠む

竹 箸 五 句

宮川嘉明(大7回)

禅寺の竹箸青し雑煮膳
故郷の竹箸太し芋煮鍋
舟宿の竹箸涼し洗鯉(あらいごい)
尼寺の竹箸細し蛭汁
袋町(いろまち)の竹箸はしる麦とろろ

彼女は卒業後商社に就職し、FAX番号と共に宜しく伝えて私は彦根で学生生活を送ることとなった。その年の夏休みに偲聖寮に届いた便りに、語学勉強のためスペインにホームステイしていることと、以来音信不通となっていた。

当時彼女はオペラが好きだったこと(特にドン・カルロ)、また学校で習っている英語、フランス語、スペイン語の三外国語の中でスペイン語が最も得意であると書かれていた。今回彼女のお母さんの話では、三年間勤めたあとスペインで結婚し、以来マドリッドに住んでいて、今は孫が三人いるとのことであり、弟さんはハノーファー市に住んでいて、奥さんはオペラ歌手とのことである。

図書紹介 「近江大一揆」

加藤徳夫 鳥影社

(大田区大森中三―二―一二)
平成十四年六月二十七日発行
定価千八百円(税別)

「一揆の成功例に学ぶ 労使問題 解決法と改革へのヒント」

たまたま、具体的な探し物も決まらずに書店を覗き見していたら、「近江大一揆」の五文字が目に入った。今時一揆は珍しい。目次をちょっと見ると「悲惨な野田村」の一項があった。野田村は紹介子の生地である。幕末、天保の改革に農民が反発し、一揆の発端の一地区ともなったという野田村で、庄屋・木村定八が幕府の検地役人市野茂三郎に應對したことのくだりがあったために、買ってしまった一冊である。

本書の副題にあるように、一揆の成功例を現代の労使問題に役立てようとする試みである。本書の八割を天保の百姓一揆の顛末に割き、残りを現代の労働争議、労働組合活動の説明に当てている。一揆が起こった場合、通例として無組織的、暴力的な形が多かったなかで、この一揆は首謀者の仲間作りや情勢分析

がよく、また庄屋による申合せ事項が徹底していたこと等により成功したとして、現代の労働運動もこの一揆の成功事例を見習うべきだと説いている。著者は、本書のあとがきで「天保義民録」、松好貞夫著「天保の義民」(岩波新書)、宇野宗佑著「庄屋平兵衛獄門記」を参考に纏めたところ。文章は平明で、市野一行が、蒲生、野州、栗太、甲賀郡を検地してゆく経緯や、百姓が苦しみ忍従していく有様、一揆を起した住民の行動がリアルに描かれている。付章で「一揆と労働争議」を述べている。労働争議を防ぎ、争議を解決するためには、具体的な事件を見聞して役立てるべきだとしても、最近の事例では、現に迷惑される人を考慮して避けたいと、そこで、現代の労働運動に似た江戸時代末期の「農民一揆」の実際を見ながら、先人の経験と知恵に学びたいとしたいものである。一揆の展開に對して、労働問題はとおり一遍の用語の解説に終わっていて、物足りない。労働組合とか労働争議とかの一般論は、現今、労働問題が鬱屈されているだけに、難しい面があるのかもしれない。

(U)

ゴルフ談義

第四十九回東京陵水ゴルフ会
 平成14年4月16日(火)
 金乃台カントリーC

桜が三月中旬から見頃となつた今年の春、桜は若葉となつて

いたが、ゴルフ日和に恵まれた一日。陽気がよすぎて、皆がのんびりゴルフか、スコアはいま一つ。その中で黒沢さんが唯一、パープレーで優勝。

次回は五十回を迎えるが、平成二年三月の第一回以降欠かさず年四回の積み重ね。参加者も毎回三十余名で定着。いずれ記念大会を催すことに。

のハンデいにミスがあり、四位の順位を本紙上で訂正。(参加者三十三名) (箸方 記)

なお、前号掲載の第四十八回のスコアにつき編集上のミスがありました。お詫びして次の通り訂正します。(編集部)

記録	ネット
優勝 小口 晃 (大14) 75(13)	優勝 確井富夫 (大6) 71(8)
二位 柴田茂夫 (大2) 76(10)	二位 西沢 正 (本24) 75(12)
三位 確井富夫 (大6) 76(9)	三位 岡田 巖 (大2) 75(18)
四位 池田辰彦 (大8) 78(13)	四位 天木清次 (大8) 75(8)
五位 北村 徹 (大14) 78(17)	五位 柴田茂夫 (大2) 76(7)
六位 井口博民 (本21) 81(20)	六位 井口博民 (本21) 78(16)
七位 吉村 恒 (大3) 82(28)	七位 野口泰良 (大3) 79(30)
八位 吉原悟一 (大9) 83(20)	八位 川村和男 (大6) 90(26)
九位 橋本 侃 (本22) 94(18)	九位 ベスグロ 確井 79
	十位 ニヤピン 西沢・柴田・井口・吉原悟一 (大9)・中川寿一 (大10)・三井照次 (大10)
	十一位 大波 天木
	十二位 小波 山口昭夫 (本22)
	(参加者二十一名) (確井 記)

第五十回東京陵水ゴルフ会

平成14年5月30日(木)
 金乃台カントリーC

当日はこれ以上ない快晴に恵まれ全員元気にスタート、好スコアが期待されたが、余りにも良馬場で肩に力が入ったせいかなンダーパーはなく、優勝はネット七十一だった。しかし参加者二十一人のうち十一人がネット七十台という状況で、全員に優勝の可能性があったコンペだった。

今回は月末のせい参加者が例月より少なく残念だったが、

次回の多数参加を期待。

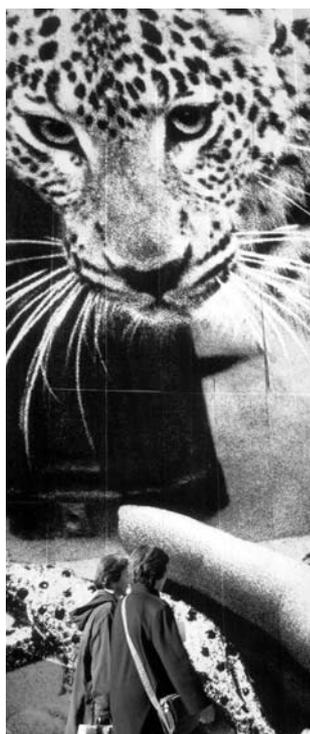
記録	ネット
優勝 確井富夫 (大6) 71(8)	優勝 三井照次 五段(大10)
二位 西沢 正 (本24) 75(12)	準優勝 高木 巖 初段(大7)
三位 岡田 巖 (大2) 75(18)	三位 島山義生 四段(大10)
四位 天木清次 (大8) 75(8)	四位 水引芳雄 七段(大2)
五位 柴田茂夫 (大2) 76(7)	五位 北村平太郎七段(大5)
六位 井口博民 (本21) 78(16)	六位 佐野志郎 七段(本18)
七位 野口泰良 (大3) 79(30)	七位 神崎栄次 七段(大3)
八位 川村和男 (大6) 90(26)	八位 北村平太郎七段(大5)
九位 ベスグロ 確井 79	
十位 ニヤピン 西沢・柴田・井口・吉原悟一 (大9)・中川寿一 (大10)・三井照次 (大10)	
十一位 大波 天木	
十二位 小波 山口昭夫 (本22)	
(参加者二十一名) (確井 記)	

東京陵水会囲碁会便り

今年はいくくデーに二回開催してみましたが、割合に集まりも良く盛会でした。二回とも日本棋院(市ヶ谷)で対局し、一階の「遊仙」で成績発表と宴会を行いました。

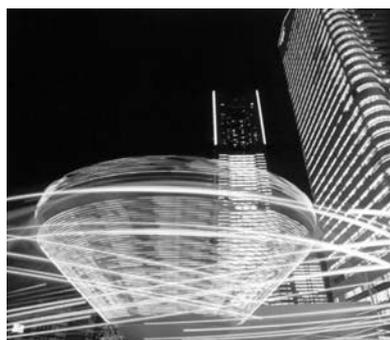
年齢のわりにはお酒の強い人が多く、お酒を酌み交わしながらの囲碁談義も楽しく、素晴らしい一日を過ごすことが出来ました。

入賞者は次の通りです。



「銀座の豹」

「銀座の豹」
 昨年、大学四回卒の竹内鋭二氏の写真展が、銀座のフォト・サロンで行われた。ご招待を受けて見に行った帰路、銀座松屋百貨店の前で見つけた面材。その後三回ほど、レンズを換え、フィルムを換え、また、写真になる登場人物を待つなど、苦労した作柄である。



ギャラクシイ

カメラの周辺

橋本 侃 (本22回)

優勝	準優勝
北村平太郎七段(大5)	中沢龍彦 六段(大10)
	橋本 侃 二段(本22)
	井上明郎 五段(大5)
	中川弥次 二段(大3)
	島山義生 四段(大10)
	栗本雅夫 四段(大4)
	柏嶋敏男 初段(本18)
	高木 巖 二段(大7)
	(吉原 記)

ワーが、その存在を表示し面白
い作品になった。

「写真展」

今、写真クラブとしては、新
宿野村ビル、日本橋、横浜地元
と三つのサークルに属してい



彦根経専二十四期同窓会

四月九日(火)彦根経専二十
四期会を名古屋マリオット・ア
ソシエホテルに於いて開催しま
した。

去年の同窓会において次回は
彦根から離れるのもよいのでは
ないかと、太田君(前岐阜支部
長)、林哲郎君(愛知県公安委
員長)等が中心となり設定をお
願いしました。地の利、駅から
〇分という場所の利もあつて
か、多数参加しました。ただ筆
者と小学校、中学校、彦根経専
まで稀有な親友の後藤正規君
が、名古屋大学付属病院に入院
のため参加できなかったのは残
念。

また当日予定の林君(多治見
中学出身)の訃報に接してもお
り、開会とともに亡き学友たち
のため黙祷を捧げました。

林哲郎君からNHK大河ドラ

る。毎月の例会、年一回の写真
展と作品作りにおおわらわであ
る。新宿野村ビルは毎年十一月
(今年は十一月七日〜十二日)
に、また、毎年五月には新宿ク
リエイトで写真展を行っている。

マ「利家とまつ」に因んで三十
階の高層から方向を指し示し、
在りし日の武将達の居城の紹介



彦根経専24期同窓会

を受けました。宴会には太田君
から特別にカーネギーホールに
て歌った遠藤女史のシャンソン
の披露もあり、大いに盛り上げ
て頂きました。

同窓会の出席の楽しみの一つ
には、長年月を経て再会、若か
りし頃が髣髴として思い出話に
五十年前を懐かしむこと。淋し
く感ずることは、折角お会いし

二九水会(大卒二回)

関東支部の集い(素描)

十一月二十一日、新宿三井ビ
ル五十四階階珍楼にエイトマン
集合。昭和二十九年の卒業生中
現在の生存者は約百三十名。そ
のうち三十名が関東に在住。お
互いに生きている幸福に感謝。

これも大畑文七学長を始め錚々
たる名物教授(秋山範二、石田
興平、江頭恒治、榎本彦次、小
倉栄一郎、大谷孝太郎、岡本愛
次、香西安久、片山暢一、桑原
晋、白杉庄一郎、杉本長夫、鈴
木和蔵、鈴木泰介、傍島省三、
高田彬、高田馨、近沢弘治、西
川達雄、芳谷有道、馬場吉行、
松尾博、村橋時郎、森順次、山
本安次郎、和田俊二)の薫陶の
お陰という点では出席者一同の
意見一致。世話人の刀祢館君は
偲聖寮時代、碁について手塩に

て来年もと誓った学友が鬼籍に
入ってしまったこと。

今年の多数の参加とともに、
来年も地元彦根にて岩崎君等が
幹事となり、希望者には泊まり
もゆつくりと話し合う場所、時
間を設定予定とのこと。学友諸
兄のお元気で一人でも多くの参
加を希望します。(高木 記)

かけた水引君が現在七段となり、
東京陵水でも師範格、囲碁生養
成の塾開設が期待される。刀祢
館君自らは五人の孫に恵まれ、
「いのちくれない」を歌わせた
鐘三つは何時でも確実の腕前。
広野君は生存同期生の中では
唯一の学者、現在成蹊大学名誉
教授・兼帝京大学政策研究大学
院教授として小泉首相のブレ
ン、民間出身の副大臣就任の可
能性有り。

亀井君は今日までの五十二年
間最も自己革新を遂げた人物。
激務の現役時代から培った写真
の腕前はその無心な視点も寄与
し、数々の写真展で入賞。子孫
については同期生で最速(来春
大学進学)のお孫さんの成長に
期待がかけられている。
白木君は数年前直腸ガンで腸
を三十七センチほど切除、さらに



二九水会関東支部の集い

野村 大塚 四塚 刀祢館 亀井 水引 広野 白木

昨年転移していた肺端部を切
除。心機一転となつて、今春桑
名を引き払い世田谷に居城を構
え、ご夫人の内助の功もあり現
在はガン予防についての食事養
生に専門的知見を確立。

野村君は本年一月十一日午前
十一時(一のゾロ目)に待望の
初孫を得られた。因みに一九六
五年に合計三キログラムの一卵
性男性双子を授かったが、うち
千三十五グラムの次男は一日だ
け生存。五年後、生まれ変わ
りの三男を授かる数奇な体験。

大場君は卒業以来、「川の流
れのように」平常心を持続され、
この世はすべて「九牛の一毛」
と達観され春風駘蕩。

よっちゃん長寿を願う健康
市民。

(四塚 記)

東京五陵会（昭和三十三年
卒・関東地区在住者）

「今回の山登りはほんとに楽しかった」と皆言う。この楽しさはどこから来ているのだろうか。久しぶりに自然に触れることが出来たからだろうか。山歩きが良かったのだろうか。一泊でゆっくり出来たせいだろうか。歳をとると人恋しくなると言うが、そのせいだろうか。皆さん多少の違いはあれ、どの項目にも頷くのではなからうか。

われわれ五陵会はいつもの飲み会を続けてきたが、前回の定例会で「次回は軽い山登りをかねてやろう」と決めた。山登りが初めての人も多からうと、楽に登れる山を探した結果、ケーブルで登れる奥多摩の御岳山に登り、日の出山へと縦走（おおげさな）し、青葉の美しい、下山路の長い山道を吉野梅郷に下りて青梅の「かんぼ」で懇親会一泊、というコースにした。

五月二十三日（木）九時、集合場所のJR立川駅青梅線ホームには、いっばし登山スタイルの若々しいおじいちゃん達が続々と現れ、子供の遠足のように皆嬉々として輝いている。中には嬉しさのせいか、よく寝られなかったという者までいる。

小雨が懸念されていたが心配なし。一同御岳駅で下車、バスに乗り継いで滝本からケーブル。六分間で標高差四百二十米を難なく運び上げてくれる。山頂駅（八百三十米）を降りると、心持ち涼しく感じる。すぐ隣に御岳平という広場があり眺望のよいところだが、あいにくの曇空、近くの山並みしか見えない。少々休んでいざ出発、十五分も歩いただろうか、神代けやき（国天然記念物）と呼ばれる周囲八・五米もある巨木の下を経て、御岳神社の大鳥居の下に着く。メンバーのうち何人かは更に長い石段を登り、本殿にて本日の登山の無事を祈ってきた。それから日の出山に向かう。五月の山は本当に美しい。萌葱色の若葉は明るくあざやかで、空気がまどいしく感じられる。幾つかの起伏を越えて五十分も歩くと、日の出山頂（九百二米）に着いた。山頂は広場になっていて、麓の小学校の遠足で大変賑わっていた。子供たちはケーブルに乗らず徒歩登山のよう

だ。子供の体は軽い、つくづく羨ましく思う。我々も彼等と一緒にあずまやで弁当をひろげる。うまい。何を飲んでも、何を食べてもうまい。これぞ山の醍醐味だ。天気がよければ奥多摩の山々は勿論のこと、新宿の高層ビル、果ては日光連山までも見渡せる所だ。が残念ながら曇空。近くの山々だけを地図と



東京五陵会の登山記念

見比べながら眺望した。記念撮影をして下山開始、多少の起伏はあるが下りだけの道。ぶな等落葉樹林となると急にあたりが明るくなる。萌葱色の若葉があざやかで、あたりの空気まで新鮮に染まり新鮮で気持ちがいい。長い下り道から、神代橋を渡って日向和田の駅に。青梅駅

まで戻って五時頃、漸く「かんぼの宿」に辿り着いた。ゆっくり温泉に浸かり今日一日の疲れを癒す。極楽だ。食堂ホールで乾杯後夕食。幹事の部屋で遅くまで、焼酎片手に囲碁に興ずる者、元氣一杯杯を傾けながら雑談、放談に夢中のグループ等々、さながら五十年前の偲聖寮にタイムスリップした感あり。一部

はカラオケにも行く。翌日は朝食後反省会、「このような楽しい会は又是非やろう」と決議して宿を後にし、青梅駅で解散した。

参加者・曾々木、近藤（以上大阪）、青島、天田、石橋、衣笠、黒田、龍口、刀拵館、中川、中西、樋上、久木、細井。十四名（細井 記）

彦根コンフレイデンシヤル

——滋大陵水新聞会

近年の大学改革の流れのなかで、大学のカリキュラムや機構は大きく変化しています。今回はこの話題に触れつつ、今後独立行政法人化（以下独法化）をむかえる滋賀大学をみすえたお話をしたいと思います。変貌する大学まず大きく変化を遂げたのはカリキュラムです。現在はセメスター制がとられ、かつては一つの講義であったものが、例えば「〇〇原論Ⅰ」は春学期に、「〇〇原論Ⅱ」は秋学期に、という形で分割され、それぞれ独立して単位が与えられるという制度が行われています。履修申請も半年ごとに分けて行われます。数年前までは、七月初旬

にいったん講義が終了し、七月、八月が夏休みとなり、九月に中間の試験が行われていたのですが、現在は七月後半に春学期の試験を行い、八月、九月がすべて夏休みとなります。秋学期の試験は一月の後半に行われます。かつての通年科目形式は、語学などに名残をとどめるのみとなりました。申請可能単位数も負担軽減等の目的から、今年度入学者では五十単位程度までに減少しています。

今年はいままでにない大きな変化が見られました。まずは教養科目の再充実が図られたことです。一時期行われた教養課程の解体に歯止めがかけられたと

いうことです。また、教養科目をはじめ、多くの科目が教育学部と共同で開講されるようになったことも、独法化に向けて、滋賀大学としての一体感の構築と、距離を克服する努力と言えます。

変わりゆく「教官と学生」

かつては少人数形式の研究・発表の場といえ三・四回生のゼミに限られていましたが（最近までであった「外書講読」は「外国文献研究」と名前を変え、必修科目から外れています。）、数年前からは高校とのギャップを埋めると言う意味もあり、一回生の春学期に「基礎演習」という、少人数での講義が必修科目としてカリキュラムに組み込まれてきました。今年度からは、この基礎演習が「大学入門セミナー」と名を改め、さらに教官と学生との間の親密な関係の構築が目指されています。

この大学入門セミナーとは別にそれぞれの教官が一定数の一回生の相談などを受け持つ「アドバイザー制度」が今年度から始まっています。アドバイザーの教官は大学入門セミナーの教官とは別の教官が各学生に割り当てられています（教官一人に

つき学生五〜六人）。近年の春学期開始日には、第二外国語の決定に一喜一憂する一回生の姿に、大学入門セミナーの教官決定の発表に期待、不安両方を露にする光景、それにアドバイザーの教官の割り当て発表の様子が加わって、今の学生気質を垣間見られるおもいになることでしょう。

学生の反応

このような変化に、当の学生の反応はなかなか複雑なものがあります。単位数の面では負担が軽減されているものの、自らの力で教官・大学を活用することがこれまで以上に求められています。大学としての質や内容の充実が追求されるのと同時に、大学生にも同じように教養と学び追求することが要請されています。過渡期にある現在の学生が敏感にこの変化を感じ取っていることは確かです。大学を活用することが学生として最も求められる中で、カリキュラム関連の問題や留年率の問題をどう解決してゆくか、滋賀大学学生の主体性が求められるところです。

新たな大学像

さて、大学院博士課程を設置が現実のものになろうとしています。博士課程の設置は滋賀大学がこれからの時代に新たな学問を創造する舞台となることを最大の目的としています。さらに、学問の発信地として、他大との連携、交流を深めていくことも目指し、既に滋賀県立大学との単位互換が始まっています。

来年は彦根高商設立八十周年を迎えます。これを契機に様々な試みの動きのなかで滋賀大学経済学部は大きな変貌を遂げようとしております。

地域と学生
最近は大学が社会に還元でき

地域と学生

最近の大学が社会に還元でき

最近の大学が社会に還元でき

(注一) 教養科目の学習…かつての人文、社会、自然の三科学から構成された体系的な教養科目と言うのは解体しています。必要単位は専門・語学・学部共通という大まかな分類になっています。経済学科の場合、ミクロ経済学概論、マクロ経済学概論、政治経済学概論が必修で一年次に履修。ミクロ経済学、マクロ経済学、政治経済学から二科目が選択必修、二年次に履修。さらに指定された経済専門十科目から五科目目が選択必修。あとは卒業要件をみたすために何を履修してもよいことになっています。

(注二) 多くの科目の教育学部との共同講義について…今年度、彦根と大津の間の通信回線が整備され、遠隔講義が行われるようになりました。双方の講義を画像で見ることが可能になりました。試験は各学部で実施の模様。

(注三) 大学入門セミナーについて…一回生向けのゼミ(必修)のようなものです。大学の学問の手法を手ほどきするといった内容を。どの教官を受講するかを、入学手続きのなかで第三希望までを記入提出します。教官の決定まで不安になります。

- 平成十四年度年会費納入者一覧 (H14・11・20現在)
- 高安規玖次 宮崎保房(本5)、近藤春雄(本6)、吉田善蔵(本8)、松居敏郎 山上敏夫 山本敏夫(本11)、佐田健造 西村正作(本13)、船見裕児(本15)、井上誠五郎 西田昭一 森田健夫(本16)、坂 松蔵 小林越夫(本17)、奥村忠雄(東1)、清原茂平 高原孝則 平尾喬 山広 新 佐野志郎 若林定男(本18)、村田良一(東2)、小林満男 高木克幸 野田泰三 古山利誠 目近武雄 横田春雄(本19)、葛上宗一郎 田波隆興 辻 暢夫 山口輝朗(本20)、井上泰一 小池 和(東4)、相道 章 井口博民 梅沢誠質 河添治男 小林正造 竹内誠太郎 土田 茂 豊田弘毅 鳥居和也 中辻喜蔵 平居正徳 吉村行雄(本21)、川瀬孝太郎 加藤福志(東5)、伊藤亮三 乾 光茂 辻 雅仁 関本晃三 高山義雄 多賀芳則 寺本康郎 中山弘一 丹羽鑽治 橋本 侃 藤見 隆 林 輝治 山崎昭雄(本22)、都世子 進 西田延弘 前川弥之祐 山田昌雄(本23)、大竹德行 岡田 浩 加納淳司 楠田勉彦 相馬 忠男 高木早苗 西沢 正 矢 田佳三 若園正夫 保正 保

(本24)、田中茂雄(別8)、西児嶋正次(大6)、磯部一郎 伊馬島惟安 藤本幸延(大15)、嶋脇宏三郎(別12)、日向保次 藤芳朗 市川浩久 宇治原嘉政 田 優 野村昌治 村田英彦 三上清一(工1)、外江龍太郎 浦谷政夫 佐野 了 鈴木重成 渡辺雅利 鈴木元広(大16)、蔵杉本哲堂(工2) 高木 巖 竹村孔作 富永義孝 田昭憲 並河日出夫 岡本和之 西野 宏 吉田紀幸(大7)、天 柴原良昭 豊田徳司 中根昌孝 荒川茂雄 内海清安 川本 茂 木清次 松浦幸作 小塩正長 (大17)、板東明彦 影山哲也 小池英夫 田中孝太郎 外村英 尾本政二 滝川雅一 東野元貞 市岡隆治 武邑邦弘(大18)、西 造(大1)、乾 哲彦 井上弘 刀祢信雄 林 史欣 安田一 沢弘行(19濟)、大八木勉 田中 大津恒夫 郷 治雄 沢井良治 雄 渡辺芳秋(大8)、飯沼靖 二郎 角田健一(20濟)、平井善 柴田茂夫 新宮 毅 刀祢館治 生 今村 修 小野 浩 日下 三 上田 求(20濟)、能島伸夫 男 川辺正郎 宮崎 正 水引 部百也 田川行雄 中島勝司 (22濟)、長井和男 山脇一泰 存在意義は、大学の社会的役割 から考えるべきだ。〜国立大 芳雄 森下潤一 四塚行雄(大 2)、田中 博 神谷 誠 神崎 郎 吉原悟一(大9)、稲垣 讓 (23濟)、湧川勝巳(23濟)、近森 栄次 小八木俊雄 清水善和 井上善隆 白井 健 宇野宏記 彦義(26濟)、重田 博(26管)、 もきちつと抑えている。」の発 言を聴きながら、母校・宮本学 長野区南台二―一五―一〇 (TEL・FAXとも) 〇三―三三八一―四四三二

編集室 所感

今号に、昨年六月の平成十四年度総会において行われた、特別講演の要旨を掲載の予定でしたが、紙面の都合上次号(六月一日発行予定)に掲載いたしました。ご容赦下さい。

過日、NHKの特集番組「シンプोजウム 改革に動く大学」(略題)で、国立大学のあるべき姿への識者の提言を視聴しましたが、その中で語られていた京大・長尾学長の「国立大学の存在意義は、大学の社会的役割から考えるべきだ。〜国立大は、すぐには役に立たない学問もきちつと抑えている。」の発言を聴きながら、母校・宮本学長野区南台二―一五―一〇 (TEL・FAXとも) 〇三―三三八一―四四三二

「会報」原稿・情報ご送付先 林 史欣(大8回) 〒164-0014 中野区南台二―一五―一〇 (TEL・FAXとも) 〇三―三三八一―四四三二 ※編集室のメールアドレスを chikayoshihayashi@nifty.com としましたのでご利用下さい。(次号分々切日 三月末日)

谷 文平 辻 昇平 樋上不二子 寺尾睦三 寺田又三 中島 色公平(大11)、菖蒲谷淳 守 義男 箸方海三 原 淳男 広 谷貞夫 堀川幸夫 増永保夫 岩田雄一(32会)、清塚 得 内士郎 松岡正曜 義島安夫 小原捷治 平井俊雄 奥村啓一 (33濟)、島津泰幸(34濟)、大 安江郁夫(大4)、青島 弘 天 宮野幸雄 山口和俊(大12)、赤 阪部定佳(36濟)、吉村栄祐 田志郎 平野 広 神谷 亨 木光明 近藤達也 若山 忠 久保健一 岡武俊雄(34会)、 衣笠 孜 飯島 勲 龍口秀夫 星出 潔(大13)、石田昭郎 葛 (37濟)、大原孝明(38濟)、北 中川郁三 中西三一 久木義男 山 薫 古山捷二郎 清水 叡 川昌樹(38管)、松沢進(38会)、 細井恭一 間宮昌蔵(大5)、朝 丸居 裕 田中泰弘 土井健一 原 弘(39濟)、立木賢一 塚 見敏夫 白井 靖 大久保義雄 郎 中村 弘 野村英機 古川 本正幸(40濟)、山下祐正 塩 大谷毅丈夫 河合正紀 川村和 浩司(大14)、海老 洋 奥村勇 谷昌史(41濟)畑瀬英樹(41濟)、 男 小林仁美 斉藤高康 玉井 雄 佐藤勝郎 山本 保 宮前 竹内晶義 花房 力(47情)、 義臣 中村博一 橋本長夫 林 秀昭 木津勝治 三谷邦男 柘 清水俊彦(短4)、北沢勝太郎 謙次郎 三宅義雄 今宿隆弘 野茂樹 富田博司 細江謨夫 (短5)、佐古知己(短30)

「百年の計」なのだから、理想に向かっていくようにしないと、今のままだと、「合理化」になってしまいます。」 本紙冒頭の「学長インタビュー」は、理想と現実のあいだで、学長が率先その衝にあたっておられる様子と、国際交流への積極的な取組みなど、新たな大 学体制づくりへのご抱負を率直 に語っていただいたと、改めて 感謝申し上げます。併せて、会 員諸氏のご一読と陵水会員とし ての今後のあるべき姿勢など、 ご一考くだされば幸いです。 おります。

発行所 〒231-0801 横浜市中区新山下3-9-3 陵水会東京支部 支部長 小池英夫 電話045(622) 2686 印刷所 〒110-0015 東京都台東区東上野1-28-3 船舶印刷株 電話03(3831) 4181

謹賀新年



株式会社 金乃台カントリークラブ

代表取締役社長 大塚 英一

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町3432

TEL 0298-72-0182 FAX 0298-72-3182

『今年も皆様のご来場をお待ちしております!!』



株式会社トッパンNECサーキットソリューションズ

代表取締役 田川 行雄



日本トランスシティ株式会社

倉庫業・港湾運送業・貨物運送業

本社：〒510-8651 四日市市千歳町6-6

TEL 0593-53-5211 FAX 0593-53-4370

関東支社：〒100-0005 千代田区丸の内1-5-1 (新丸ビル)

TEL 03-3212-7651 FAX 03-3212-7680

富士貿易株式会社

取締役会長 小池 英夫 (大1回卒)

代表取締役社長 藤本 幸延 (大15回卒)

〒231-0801 横浜市中区新山下3-9-3 ☎045-622-2307 FAX 045-625-2011

..... ごあんない.....

第15回 大近江展 

【会期】平成15年2月13日(木)～18日(火) 6日間 10時～19時30分

【会場】日本橋高島屋 8階会場

【主催】滋賀県・(社)滋賀県産振興会

【協賛】(社)東京滋賀県人会・全国滋賀県人会連合会

 淡海の伝統の味 (鮎寿し、近江牛、近江銘茶・銘菓、近江漬物、地酒)

手から手へ受け継がれた工芸品 (信楽焼、近江上布、大津絵) 等を揃えました。

郷土食も味わっていただけます。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

お問合せ 滋賀県東京観光物産情報センター TEL 03 (5220) 0231 FAX 03 (3211) 4689